

鹿児島大学 農学部概要

Faculty of Agriculture Kagoshima University

2025



国立大学法人

鹿児島大学

KAGOSHIMA UNIVERSITY

食と農、森と水、 基礎から最先端バイオ・農業DXまで



はじめに

鹿児島大学農学部の前身の鹿児島高等農林学校は明治41(1908)年に設置され、翌年に開校しました。明治42(1909)年に高隈演習林、大正5(1916)年に唐湊果樹園、大正7(1918)年に指宿植物試験場を開設し、100年以上に渡り南九州から南西諸島域までの幅広い地域における農学に関する教育研究の拠点として活動を続けてきました。高等農林学校設置は日露戦争から3年後であり、当時の南方資源開発が開校の大きな目的の一つでした。その後、現在まで大学を取り巻く状況は大きく変化しましたが、いつにあって鹿児島大学農学部は、その時代だけでなく未来を見通して、地域や世界の課題解決に関する教育研究に取り組んで来ました。

21世紀も今年で1/4を過ぎましたが、社会状況は年々混迷の度を深めています。気候変動(地球温暖化)や国際的紛争、日本における少子高齢化などは食料供給の不安定化や農業従事者不足のように直接農林食産業に関わる大きな問題であり、これらの解決に資する人材育成や教育研究の推進が必要です。

そのため、鹿児島大学農学部は令和6(2024)年度に大幅な教育組織改革を実行し、従来の3学科制を1学科4教育プログラム制としました。その結果、学生がそれぞれのキャリアプランに基づいた履修ができることとなり、現場重視の教育と高度な学問的知見・技術との融合を図ることが可能になりました。これらによ

て、農林食産業全体を理解する農業総合力と専門性を兼ね備するだけでなく、既成概念に捉われない思考による新たな価値の創造やビジョンの形成、先進的視点と新技術を駆使して課題解決ができる人材の育成を図ることを目的としています。

研究面では、特に現在世界が求めている持続的な社会の構築を目指し、食料生産力向上、食と安全、生物多様性、島嶼や環境問題に取り組むことが重要だと考えます。気候変動(地球温暖化)に起因する問題解決に関する研究も重要です。さらに鹿児島県は農林食産業が基幹産業であり、温帯から亜熱帯、また高山では冷温帯の気候が分布する自然が極めて多様な地域です。さらに、地熱や温泉などの自然エネルギーにも富んでいます。農学部では地域のこれらの特徴を積極的に活かした教育研究を進めることによって地域だけでなく世界にもその成果を還元することを目指します。

本冊子を通して、鹿児島大学農学部に関心を持っていただき、ご理解を深めていただければ幸いです。



農学部長 山本 雅史

鹿児島大学農学部小史

鹿児島大学農学部は、1908年に創設された鹿児島高等農林学校に始まり、1944年に鹿児島農林専門学校へ改称を経て、1949年に設置されました。

鹿児島高等農林学校初代校長の玉利喜造博士は、我が国における農学博士第1号として、日本をリードしてきた農学教育者であり、以来、115年間に輩出された得業生、卒業生、修了生は21,082名に上り、また昭和63年に設置された大学院博士課程における学位取得者は1,237名になっています。

これら卒業生の多くが日本農業の近代化を推進して食料の供給を図り、地域社会へも大きく貢献しています。

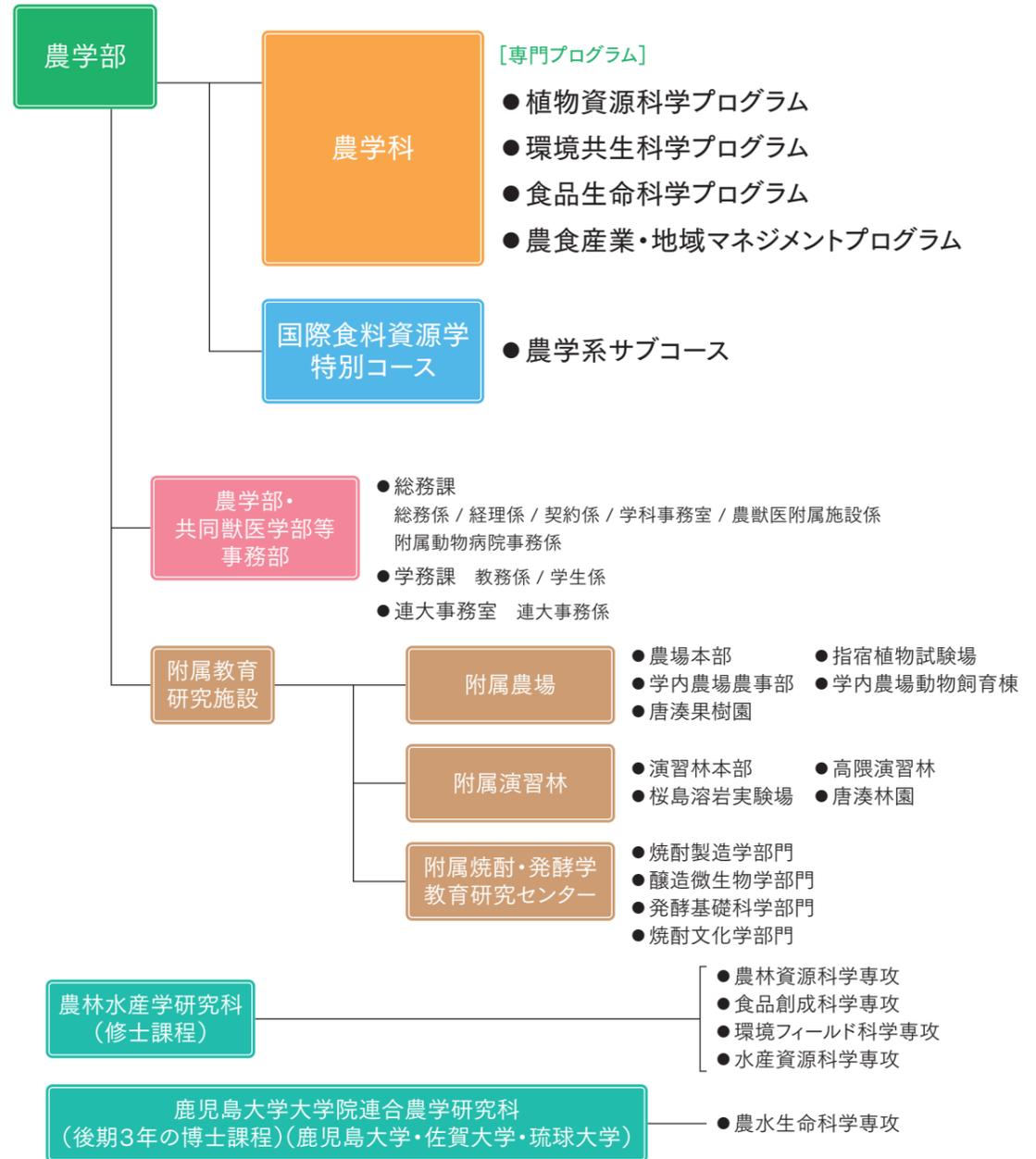


(令和7年3月31日現在)

目次

組織図	3
教育目標	4
アドミッション・ポリシー	4
ディプロマ・ポリシー	4
カリキュラム・ポリシー	4
農学科	5
植物資源科学プログラム	7
環境共生科学プログラム	9
食品生命科学プログラム	11
農食産業・地域マネジメントプログラム	13
国際食料資源学特別コース	15
学会賞等の受賞	18
在校生からのメッセージ	19
附属教育研究施設	20
附属農場	21
附属演習林	23
附属焼酎・発酵学教育研究センター	24
農林水産学研究科	25
連合農学研究科	26
農学部の4年間	27
国際交流・外国人留学生	29
農学部の主な進路	30

組織図



役職員	
学部長	山本 雅史
副学部長	高峯 和則
副学部長	坂巻 祥孝
副学部長	坂井 教郎
農林水産学研究科長	西 隆一郎
農水研副研究科長	山本 雅史
連合農学研究科長	北原 兼文
連合農学研究科副研究科長	寺田 竜太
農学科長	坂巻 祥孝
植物資源科学プログラム長	一谷 勝之
環境共生科学プログラム長	寺本 行芳
食品生命科学プログラム長	玉置 尚徳
農食産業・地域マネジメントプログラム長	豊 智行
附属農場長	高山 耕二
附属演習林長	寺岡 行雄
附属焼酎・発酵学教育センター長	玉置 尚徳

教育目標

多様な自然環境と生物資源に恵まれた鹿児島県の地域特性を活かした主体性重視の実践教育及び分野横断型農学DX教育により、我が国の持続可能な農林食産業の発展と地域の課題解決に農学総合力と専門性を持って果敢に取り組み、新時代を自ら切り拓くことができる人材の育成を目標とします。

アドミッション・ポリシー

- 求める人材像
農学部は、次のような学生を国内外から広く求めています。
 - ◎農学関連分野に強い関心を持ち、将来これらの分野で活躍を目指す意欲のある人
 - ◎自然科学の幅広い知識と英語の基礎的な学力を備え、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の修得に意欲のある人
 - ◎フィールドや生産現場での技術・研究に強い関心を持ち、農林業及び食品生命科学に関する実務・実技能力の向上を目指す人
 - ◎多様で持続的な社会の構築に参画し、地域社会、国際社会に貢献することを目指す人
- 入学前に身につけておいて欲しいこと
高等学校の国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語、情報などの幅広い基礎学力のほか、特に数学、理科、英語の高い知識・能力を身につけていることが望ましいです。
- 入学者選抜の基本方針
 - ◎一般選抜（前期日程）では、大学入学共通テストに加え、個別学力検査を課し、自然科学の幅広い知識と英語の基礎学力、思考力及び高等学校の調査書を評価し選抜します。
 - 一般選抜（後期日程）では、大学入学共通テスト成績による幅広い学力の確認に加えて、小論文形式によって、理論的思考力、記述・表現力、及び高等学校の調査書を評価し、総合的に選抜します。
 - ◎学校推薦型選抜Ⅰでは、農学関連分野への意欲と勉学・研究への潜在能力が高い学生及び多様な社会の構築に関心の高い学生を受け入れるため、小論文、面接又はプレゼンテーションに基づいて総合判定し選抜します。
 - ◎学校推薦型選抜Ⅱでは、大学入学共通テストの成績による幅広い学力の確認に加えて、高等学校の調査書と志望理由書を評価し、総合的に選抜します。
 - ◎自己推薦型選抜では、大学入学共通テストに加え、講義型試験と面接を課し、思考力・判断力・理解力及び文章での表現力などを評価し選抜します。
 - ◎私費外国人学部留学生選抜では、日本留学試験、面接及び英語能力を総合的に評価して選抜します。
 - ◎国際バカロレア選抜では、コミュニケーション能力や論理的思考力、課題発見・解決能力などの資質を備えていると考えられる国際バカロレア資格取得者に対し、書類審査及び面接を行い総合判定して選抜します。

ディプロマ・ポリシー

農学部は、全学の学位授与方針及び農学部の教育目標に鑑み、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

- グローバルな視点を持ち地域の農林業及び食品・生命科学関連産業を取り巻く様々な課題に積極性・主体性・協調性をもって果敢に取り組むことができる能力。
- 農林業及び食品・生命科学関連産業に関する専門的な知識を有し、多様なコミュニケーション能力を備え、他者と協働する能力。
- 関連産業が直面する課題を俯瞰的に捉え、専門知識と先進技術を駆使し、持続可能な農林業及び食品・生命科学関連産業の発展、地域社会の課題解決に貢献することができる能力。

カリキュラム・ポリシー

農学部の学位授与の方針に沿った人材を養成するために、以下に示す方針に基づいて、初年次から卒業まで系統性のある教育課程を編成

- 初年次から卒業まで系統性のある教育課程の編成
 - 1年次では、共通教育科目を中心に履修させ、幅広い教養を身に付けることを目指し、フィールド基礎実習や産業体験をはじめとする、農学専門領域の学修動機付けへの寄与を目的とした導入的な科目を配置します。
 - 1年次から2年次にかけてプログラム分けを行い、プログラムごとの特色ある講義科目により、基礎的な理解度を向上させる教育を行います。
 - 2年次から3年次にかけて、応用的な専門教育を行うために、指導教員への配属を行います。充実した卒業研究を遂行するために、本学部の特徴であるフィールドトレーニング（実験、実習）により、実践力の向上をめざす科目を配置します。
 - 3年次から4年次にかけて、教員による、より密接な指導や学生間のコミュニケーションと相互指導により課題に取り組みながら、問題解決能力を養う科目を配置します。
 - 学生本人が主体的かつ積極的に自身の進路や将来目標の達成を見据えたカリキュラムを編成できるように、1年次から2年次にかけてキャリア教育科目を配置します。修学中は定期的にキャリアマップの作成・修正と学修の振り返りを行い、常に学修意義を認識できる教育を行います。
 - 将来の進路や取得を目指す資格への関連性の認識を容易とするための科目グループ（モジュール）を明示し、円滑な学修計画の策定を促す教育を行います。
- 目的・目標に応じた方法による教育の実施
学位授与の方針に掲げる能力を育成するために、各科目の目的・目標に応じた方法による教育活動を行います。
- 厳格な成績評価の実現
各科目において教育・学修目標と評価基準を明確に示し、厳格な成績評価を行います。

農学部農学科

(令和6年度から)

農学科一括募集

2年進学時にプログラムを選択

(令和5年度まで)

農業生産科学科

食料生命科学科

農林環境科学科

農学科

- 植物資源科学プログラム
- 環境共生科学プログラム
- 食品生命科学プログラム
- 農食産業・地域マネジメントプログラム

農学科の教育の特色

◎1年次

農林業、食品、環境に関わる幅広い講義とフィールド実習
+
将来を考えるキャリア教育

◎2年進学時にプログラムを選択

◎プログラム間の敷居は低く、分野横断型の学習が可能

◎将来を見据え主体的に科目を選択・履修

◎南北600kmをフィールドとする農学DX教育

農学科

Faculty of Agriculture

植物資源科学プログラム

環境共生科学プログラム

食品生命科学プログラム

農食産業・地域マネジメントプログラム

2年進学時に選択する4つのプログラム

先進技術による植物資源の
生産と活用を実現する

植物資源科学プログラム



【主な学びの分野】

作物学、熱帯作物学、植物育種学、比較環境農学、果樹園芸学、観賞園芸学、植物栽培・機能学、土壌科学、植物病理学、植物生命工学、植物栄養・肥料学、環境情報システム学、農業環境システム学

生物資源や生命機能を分子・細胞・生体レベルで解析して
食品の開発と人類の健康に貢献する

食品生命科学プログラム



【主な学びの分野】

食品分子機能学、食品化学、生分子機能学、応用糖質化学、生命高分子化学、焼酎製造学、醸造微生物学、応用分子微生物学

生物多様性の保全と農林産物の生産活動が調和した
持続的発展を実現する

環境共生科学プログラム



【主な学びの分野】

育林学、森林計画学、森林政策学、森林保護学、木質資源利用学、砂防・森林水文学、利水工学、農地工学、害虫学、野菜園芸学、動物行動学

経営・経済学観点から農食産業と地域の
持続的発展に貢献する

農食産業・地域マネジメントプログラム



【主な学びの分野】

農業経済学、農業市場学、農業経営学、食品保蔵学、食料環境システム学、農産食品保蔵学、フードシステム論

先進技術による植物資源の生産と活用を実現する



桜島を望みながらのイネ調査

プログラム紹介

植物を資源とする農産物の生産・開発に関する分野について教育・研究します。

温帯から亜熱帯にまたがる鹿児島県の地域的特性を活かし、九州・南西諸島地域の農業の現場をフィールドとして、新しい植物資源生産技術と植物資源を活用した新たな農産物の創出に貢献できる人材を育成します。



エジプトでのイネの光合成測定



カキの剪定

カリキュラム

年次	専門基礎科目	農学基礎(農業原理)	キャリア教育科目	キャリア1: 農学プログラム概論
1年次	専門基礎科目	農業と社会	キャリア教育科目	キャリア2: 業界学習
	専門基礎科目	フィールド基礎実習	キャリア教育科目	キャリア3: キャリアデザインⅠ
	専門基礎科目	基礎化学入門B	専門科目	遺伝学
	専門基礎科目	基礎生物学入門	専門科目	国際開発学
2年次	キャリア教育科目	キャリア3: キャリアデザインⅡ	専門科目	土壌科学Ⅰ,Ⅱ
	キャリア教育科目	キャリア4: 学外研修	専門科目	植物遺伝資源学
	専門科目	栽培技術論	専門科目	植物病理学Ⅰ,Ⅱ
	専門科目	果樹園芸学	専門科目	雑草防除学
	専門科目	観賞園芸学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	農場実習(集中)
3年次	専門科目	植物栄養・肥料学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	作物学Ⅰ,Ⅱ
	専門科目	植物生理学	専門科目	熱帯作物学Ⅰ,Ⅱ
	専門科目	農業気象環境学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	農業機械学Ⅰ,Ⅱ
	専門科目	耕地生態学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	植物生産学実験3
	専門科目	食料安全生産論	専門科目	植物生産学応用実験
4年次	専門科目	植物生産学実験2	専門科目	農場実習Ⅱ,Ⅲ
	専門科目	卒業研究	専門科目	地域実習
	専門科目		専門科目	農業生産実地研修

教員からのメッセージ



農学科
植物資源科学プログラム
教授
志水 勝好

私の研究は植物や作物栽培による、1.地球温暖化防止・回復、2.沙漠化の防止・修復、および3.鹿児島県への地域貢献があげられます。1は、君たちが家庭を持ち、子供さん達が成人する頃には、夏は40度を超える日が連日続き、今より大きく強力な台風が複数日本を襲うことが予想されています。待ったなしの課題です。私はCO₂固定能力の高い作物での空気中のCO₂の低減技術開発研究を行っています。2は世界の沙漠化の進行により農耕地が減少しつつあり、食糧生産が脅かされています。それを植物栽培によって防止する研究をしています。3については現在奄美大島でサトウキビの塩害の防止技術の開発、鹿児島の新しいブランドとなる作物のオカワカメやローゼル普及を目指しています。待っていても誰も問題解決してくれません。だから私は研究室の学生と共に挑みます。



サハラ砂漠にて

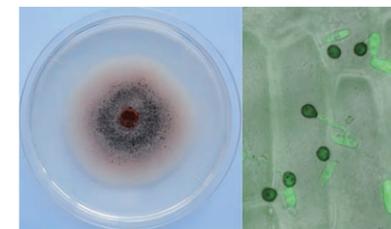
○学位/博士(農学) ○専門/比較環境農学、作物学、植物生理学 ○担当講義/比較環境農学、他

教員一覧

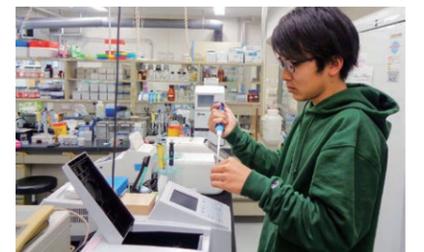
職名	氏名	分野	担当講義
教授	一谷 勝之	植物育種学	植物育種学、遺伝学
教授	境 雅夫	土壌生態制御学	土壌科学Ⅰ,Ⅱ
教授	坂上 潤一	熱帯作物学	熱帯作物学Ⅰ,Ⅱ
教授	志水 勝好	比較環境農学	比較環境農学Ⅰ,Ⅱ
教授	山本 雅史	果樹園芸学	果樹園芸学、耕地生態学Ⅱ、植物生産学実験Ⅰ
准教授	池永 誠	土壌科学	土壌科学Ⅰ,Ⅱ、食環境微生物学、食環境微生物学実験
准教授	岡本 繁久	植物生命工学	植物生理学
准教授	神田 英司	環境情報システム学	農業気象環境学Ⅰ,Ⅱ
准教授	清水 圭一	観賞園芸学	観賞園芸学Ⅰ,Ⅱ
准教授	下田代 智英	作物学	作物学Ⅰ,Ⅱ、農業基礎、耕地生態学Ⅰ
准教授	樗木 直也	植物栄養・肥料学	植物栄養・肥料学Ⅰ,Ⅱ
准教授	中村 正幸	植物病理学	植物病理学Ⅰ,Ⅱ
准教授	朴 炳宰	植物栽培・機能学	農場実習Ⅰ,Ⅱ、暖地農業実習
准教授	香西 直子	熱帯果樹園芸学	植物遺伝資源学
助教	赤木 功	植物栄養・肥料学	無機化学、食料安全生産論
助教	末吉 武志	農業環境システム学	農業機械学Ⅰ,Ⅱ
助教	西澤 優	園芸作物生産学	栽培技術論、農場実習Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ



鹿児島の伝統野菜(地域で受け継がれているカブ品種)



植物病原菌のコロニー(左)と胞子発芽(右)



酵素活性の測定

卒業後の進路 (旧学科実績)

鹿児島県
農林水産省
農林水産消費安全技術センター
長崎県
植物防疫所
片倉コープアグリ(株)

薩摩酒造(株)
宮崎県
鹿児島市役所
南日本銀行
井関農機(株)
熊本県

サンケイ化学(株)
鹿児島銀行
富士通(株)
岡山県
大分県農業協同組合
山崎製パン

JA全農ふくれん
福岡県
タキイ種苗
鹿児島大学大学院
(株)リョーユーパン



生物多様性の保全と農林産物の生産活動が調和した持続的発展を実現する

奄美大島の世界自然遺産地域でのモニタリング調査

プログラム紹介

グローバルかつ地域的視点をもって自然資本を理解し、生物多様性の保全に関する諸問題の解決に取り組み、持続的かつ安定的な農林業生産活動に貢献する人材を育成するプログラムです。

環境の保全や農林産物資源の生産に関する分野について教育・研究します。本プログラムでは農林業における環境及び廃棄物処理の問題、資源管理、自然災害対策(防災・治水)、土質環境の改良、灌漑利水、害虫や害獣の制御、先進技術を利用した農林業生産と管理・計画の高度化(スマート農林業)等に関する専門知識について学習することができます。



浸透能(インタークレート)調査

カリキュラム

年次	専門基礎科目	農学基礎(農業原理)	キャリア教育科目	キャリア1:農学プログラム概論	専門科目	応用力学	専門科目	農林業ICT論Ⅰ,Ⅱ
1年次	専門基礎科目	農業と社会	キャリア教育科目	キャリア2:業界学習	専門科目	野菜園芸学	専門科目	森林利用学Ⅰ
	専門基礎科目	フィールド基礎実習	キャリア教育科目	キャリア3:キャリアデザインⅠ	専門科目	環境フィールド演習	専門科目	景観デザイン学Ⅰ,Ⅱ
	専門基礎科目	基礎化学入門B	専門科目	環境共生学	専門科目	屋久島実習	専門科目	地盤環境工学Ⅰ,Ⅱ
	専門基礎科目	基礎生物学入門	専門科目	応用力学	専門科目	害虫学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	森林社会・経済演習
	キャリア教育科目	キャリア3:キャリアデザインⅡ	専門科目	応用力学	専門科目	治山・砂防学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	樹木実習
2年次	キャリア教育科目	キャリア4:学外研修	専門科目	環境フィールド演習	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	基礎統計学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	環境フィールド演習	専門科目	森林保護学	専門科目	樹木実習
	専門科目	森林生態学	専門科目	害虫学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	森林保護学	専門科目	治山・砂防学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
3年次	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
4年次	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学
	専門科目	森林保護学	専門科目	森林微生物学	専門科目	森林保護学	専門科目	森林生態学

教員からのメッセージ



農学科
環境共生科学プログラム
助教
榮村 奈緒子

森林にすむ動物の生態や管理について研究と教育を行っています。鹿児島は南北600kmに広がり、暖温帯から亜熱帯を含む森林に多様な生物が生息している魅力的なフィールドです。最近では、演習林や奄美大島をフィールドに希少種や農林業被害で問題になっている鳥獣のモニタリング、種子散布にかかわる生物間相互作用の理解について取り組んでいます。

環境共生科学プログラムでは、他にも菌類や植物の生態、森林資源の利用・政策、スマート林業、防災などが専門分野の教員がいて、森林について多角的に学ぶことができます。一緒に森林に関わる様々な課題について、考えていただければ幸いです。

○学位/博士(理学)立教大学 ○専門/森林保護学、動物生態学、多様性生物学
○担当講義/森林動物学、森林生態学実習、他

教員一覧

職名	氏名	分野	担当講義
教授	寺岡 行雄	農林業 DX	地域計画学、農林業 ICT 論
教授	西野 吉彦	木材工学	応用力学、バイオマス工学
教授	坂巻 祥孝	害虫学	害虫学、生物的防除論
教授	寺本 行芳	砂防学	治山・砂防学、森林水文学
准教授	鷓川 信	育林学	育林学、育林学実習、樹木実習
准教授	加治佐 剛	森林計画学	森林計測学、農林業センシング、農林業 ICT 論
准教授	畑 邦彦	森林保護学	森林保護学、森林微生物学、樹病学
准教授	伊藤 祐二	利水工学	環境水理学、水土実験
准教授	肥山 浩樹	農業農村工学	地盤環境工学、農地保全学
准教授	吉田 理一郎	植物間コミュニケーション	野菜園芸学
准教授	大久津 昌治	動物繁殖学	家畜繁殖学、動物発生工学
准教授	高山 耕二	動物行動学	有機畜産論、応用動物行動学
助教	安田 悠子	樹木生理生態学	森林生態学、樹木実習、育林学実習
助教	奥山 洋一郎	林政学	森林経済学、森林政策学、森林社会経済演習
助教	榮村 奈緒子	動物生態学	森林動物学、森林生態学実習
助教	平 瑞樹	農地環境保全学	景観デザイン学、農地保全学、水土実験
助教	牧野 耕輔	森林利用学	森林利用学、森林管理・施業実習
助教	高橋 さやか	木質組織学	木質工学、木質工学実験



木材市場の見学実習



農地で草刈り動物(アイガモ)を活用



ドローンによる農業散布試験

卒業後の進路

- 農林水産省
- 各県森林組合連合会
- 林業関係企業
- 銀行
- JA全農
- 農業メーカー
- 林野庁
- 各県土地改良事業団
- 森林・木材関連企業
- 水道局
- JA経済連
- 肥料流通産業
- 各県県庁
- 情報産業企業
- 建設企業
- 農業資材メーカー
- 建設コンサルタント企業
- 市町村役場
- 食品産業
- 環境関連企業
- 牧場
- 各県警察庁
- ゼネコン
- 生殖医療病院



生物資源を分子・細胞・生体レベルで解析し
食の発展と人の健康に貢献する

プログラム紹介

未来の食品科学を開拓する人材育成を目指し、食品や生命機能に関する幅広い分野について教育・研究します。

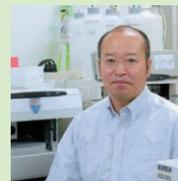
生物資源を分子から細胞、生体までのマルチスケールで捉え、最新のバイオテクノロジーを駆使して、食品素材の新しい機能を探索・評価したり、焼酎製造や発酵を担う微生物の育種や機能を解明したりすることにより、健康で豊かな食生活基盤を支えるための人材を育成します。



カリキュラム

年次	科目	内容	科目	内容	科目	内容
1年次	専門基礎科目	農学基礎(農業原理)	キャリア教育科目	キャリア1:農学プログラム概論		
	専門基礎科目	農業と社会	キャリア教育科目	キャリア2:業界学習		
	専門基礎科目	フィールド基礎実習	キャリア教育科目	キャリア3:キャリアデザインI		
	専門基礎科目	基礎化学入門B	専門科目	食品化学		
2年次	専門基礎科目	基礎生物学入門				
	キャリア教育科目	キャリア3:キャリアデザインII	専門科目	食品機能学	専門科目	食品分析化学実験
	キャリア教育科目	キャリア4:学外研修	専門科目	応用微生物学	専門科目	食品生化学実験
	専門科目	生物化学A	専門科目	酵素化学	専門科目	微生物学実験
	専門科目	生物化学B	専門科目	無機化学	専門科目	遺伝子工学実験
	専門科目	有機化学	専門科目	栄養化学	専門科目	分析化学
3年次	専門科目	代謝生化学	専門科目	細胞分子生物学		
	専門科目	食品微生物学	専門科目	発酵食品製造実習	専門科目	食品製造実習
	専門科目	植物性食品学	専門科目	糖質科学	専門科目	醸造微生物学
	専門科目	焼酎製造学	専門科目	焼酎製造学実験	専門科目	ビジュアルデザイン演習
4年次	専門科目	動物性食品学	専門科目	食品衛生学	専門科目	専門英語
	専門科目	卒業研究				

教員からのメッセージ



農学科 食品生命科学プログラム
教授
藤田 清貴

皆さんの腸には多くの腸内細菌が住んでいます。腸内細菌は私達が食べる食品に含まれる食物繊維を多様な酵素を使って分解し、短鎖脂肪酸を出すことで腸の健全性の維持に貢献しています。私はビフィズス菌が持つ分解酵素の研究を行っています。

食品生命科学プログラムでは食品に含まれる機能性の化学的根拠を明らかにしたり、高い機能性を有する食品を探索したり、機能性を高めたり、ワクチン開発に応用したりと、様々な研究を協力して行きます。

興味を感じた皆さん、食品の機能性を一緒に明らかにしましょう。

- 学位/博士(農学)愛媛大学
- 専門/応用糖質科学、腸内細菌学
- 担当講義/糖質科学、酵素化学、遺伝子工学実験、他



農学科 食品生命科学プログラム
准教授
二神 泰基

発酵産業では微生物のはたらきを上手くコントロールすることで、様々な発酵食品や有用物質がつけられています。発酵は私たちにとって身近な存在なので、そのメカニズムについても全て分かっていると思われがちですが、実は分っていない興味深い現象がたくさん存在しています。例えば、私が研究している焼酎造りに使われる麹菌が大量のクエン酸を生産できる能力もそのひとつです。私たちはこのようなブラックボックスを解明するための研究やその成果を利用した新技術の開発に取り組んでいます。

微生物の性質を分子レベルで理解することは、有用物質を効率よく生産したり、美味しく体に良い発酵食品を製造したりする技術の開発につながります。私たちと一緒に、日々の微生物の研究を通して発酵の様々なメカニズムの解明や新しい発酵技術の開発を行ってみませんか。

- 学位/博士(農学)九州大学
- 専門/応用微生物学、発酵化学
- 担当授業/遺伝子工学実験、醸造微生物学、他

教員一覧

職名	氏名	分野	担当講義
教授	石橋 松二郎	応用微生物学	応用微生物学、食品微生物学、微生物学実験
教授	北原 兼文	応用糖質化学	有機化学、植物性食品学、食品機能科学
教授	高峯 和則	焼酎製造学	焼酎製造学、焼酎製造学実験、発酵食品製造実習
教授	玉置 尚徳	醸造微生物学	細胞分子生物学、醸造微生物学
教授	藤田 清貴	応用糖質科学	糖質科学、酵素化学、遺伝子工学実験
准教授	加治屋 勝子	先端健康科学	基礎生物学入門、栄養化学、食品分析化学実験
准教授	坂尾 こそ枝	食品分子機能学	食品機能学、食品生化学実験
准教授	花城 勲	生命高分子化学	生物化学A、酵素化学
准教授	二神 泰基	醸造微生物学	醸造微生物学、遺伝子工学実験
准教授	南 雄二	生分子機能学	代謝生化学、食品分析化学実験
准教授	宮田 健	食品化学	食品化学、動物性食品学、食品生化学実験
准教授	吉崎 由美子	焼酎製造学	生物化学B、焼酎製造学実験、発酵食品製造実習
准教授	鶴丸 博人	応用微生物学	微生物学実験



白麹菌の顕微鏡観察



酵素法による糖の選択的定量



麹造り

卒業後の進路 (旧学科実績)

修士課程・博士前期課程進学
厚生労働省
農林水産省
県庁
市区役所
JA

植物防疫所
アドバンテック(株)
イオン九州(株)
久原本家グループ
熊本森永乳業(株)
霧島酒造(株)

九州電力(株)
(株)再春館製薬所
薩摩酒造(株)
セイカ食品(株)
宝HD(株)
(株)たらみ

(株)ニチレイフーズ
日本マクドナルドHD(株)
はごろもフーズ(株)
本坊酒造(株)
(株)ヤクルト本社
山崎製パン(株)



経営・経済学観点から農食産業と地域の持続的発展に貢献する

プログラム紹介

農食産業の経営・経済的な分析や実践的な技術及び地域マネジメントについて教育・研究します。

農食産業の生産から加工・流通・消費までをフードシステムとして捉え、経営・経済学的及び技術論的に理解するとともに、地域を取り巻く諸問題の解決に貢献する実践的な人材を育成します。



食品工場現場の視察：高い品質と安全性の確保の取り組み



住民向け研究成果報告会



大規模農家へのインタビュー

カリキュラム

年次	科目	内容	科目	内容	科目	内容
1年次	専門基礎科目	農学基礎(農業原理)	キャリア教育科目	キャリア1:農学プログラム概論		
	専門基礎科目	農業と社会	キャリア教育科目	キャリア2:業界学習		
	専門基礎科目	フィールド基礎実習	キャリア教育科目	キャリア3:キャリアデザインⅠ		
	専門基礎科目	基礎化学入門B	専門科目	フードシステム入門Ⅰ・Ⅱ		
	専門基礎科目	基礎生物学入門				
2年次	キャリア教育科目	キャリア3:キャリアデザインⅡ	専門科目	青果保蔵学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	暖地農業実習
	キャリア教育科目	キャリア4:学外研修	専門科目	品質管理システム学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	農業経済学入門Ⅰ,Ⅱ
3年次	専門科目	農業経営学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	農産物価格理論Ⅰ,Ⅱ	専門科目	食料経済学Ⅰ,Ⅱ
	専門科目	農産物流通論Ⅰ,Ⅱ	専門科目	食品プロセス学実習	専門科目	国際農業論Ⅱ
	専門科目	農産物マーケティング論Ⅰ,Ⅱ	専門科目	食産業・地域マネジメント演習Ⅰ,Ⅱ	専門科目	ポストハーベスト生化学Ⅰ,Ⅱ
	専門科目	農村計画学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	質的研究方法論	専門科目	専門英語
	専門科目	農業政策学Ⅰ,Ⅱ	専門科目	農村課題解決プログラム		
4年次	専門科目	青果保蔵学実験	専門科目	国際農業論Ⅰ		
	専門科目	卒業研究				

教員からのメッセージ



農学科 農食産業・地域マネジメントプログラム
准教授 濱中 大介

皆さん、農学部ではどんなことを研究すると思いますか?野菜、果物、肉を生産する研究でしょうか?食品の機能性の研究でしょうか?そのような分野以外にも、高い品質や安全性を確保するために必要な技術開発と、そこに関連する現象の解明も重要な農学部の研究です。当たり前のように毎日利用しているスーパーやコンビニは、食品の保存技術の集大成です。暮らしを支える研究を農学部と一緒に取り組めることを楽しみにしています。

- 学位/博士(農学)九州大学
- 専門/ポストハーベスト工学、食品保蔵学、食品殺菌工学
- 担当講義/青果保蔵学、青果保蔵学実験、食品安全品質管理学、他



農学科 農食産業・地域マネジメントプログラム
助教 大住 あづさ

私たちの生活に欠かせない食品が食卓に届くまでには、農業だけでなく、加工や流通など多くの人々と仕組みが関わっています。それだけでなく、このプロセスは地域社会、国際貿易、環境問題、そして私たちの健康や文化とも深く結びついています。

こうした「食」と「農」の仕組みや現状をデータや実態から徹底的に明らかにし、その中で見えてくる課題について考えてみませんか。単なる理論ではなく、実践的な知識と分析力を身につけ、持続可能な社会の実現に向けていっしょに探求しましょう。

- 学位/博士(農学)京都大学
- 専門/フードシステム論
- 担当授業/農業経営学、農村計画学、質的研究方法論

教員一覧

職名	氏名	分野	担当講義
教授	李 哉法	農業経営学	農産物マーケティング論、農村課題解決プログラム、フードシステム入門
教授	坂井 教郎	農業経済学	農業政策学、農産物価格理論、農業構造論
教授	豊 智行	農業市場学	食料経済学、農産物流通論、国際農業論
准教授	紙谷 喜則	食品加工	品質管理システム学、食品プロセス学実習
准教授	濱中 大介	農産食品保蔵学	青果保蔵学、青果保蔵学実験等
准教授	渡部 由香	食品保蔵学	ポストハーベスト生化学、青果保蔵学
助教	大住 あづさ	フードシステム論	農業経営学、農村計画学、質的研究方法論等
助教	亀川 藍	食料農業経済学	農業経済学



地域課題析出のための座談会



学生による地域イベント(田植え祭)の支援



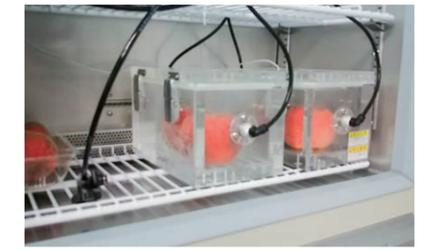
地域マネジメントのあり方をさぐるディスカッション



地域住民との交流会



日本産農産物の海外輸出:農産物の鮮度・品質を維持するための技術開発



果物の保存試験:最適な保存環境条件を見出すための研究

卒業後の進路 (旧学科実績)

- | | | | |
|----------|---------|----------|----------------|
| ハウス食品(株) | (株)たらみ | NHK | 味の素AGF(株) |
| 山崎製パン(株) | 大正製薬(株) | 宮崎県庁 | 富士通(株) |
| (株)サナス | 鹿児島県庁 | (株)ヤクルト | キリンエンジニアリング(株) |
| プリマハム(株) | 長崎県庁 | カゴメ(株) | 森永乳業(株) |
| 江崎グリコ(株) | 熊本県庁 | 日清食品(株) | 厚生労働省 |
| 日清製粉(株) | 鹿児島経済連 | アサヒ飲料(株) | |

国際食料資源学特別コース

Special Course in International Food and Resource Sciences

農学系サブコース	教授	坂上 潤一
	准教授	フェスターガード C ムンデランジ
	准教授	池永 誠
	准教授	香西 直子
	准教授	坂尾 こず枝



アドミッション・ポリシー

特別コースは、次のような学生を求めています。

- (1) 国際食料資源学特別コースの教育目標に共感し、その実現に向けて考える力と意欲を持つ人。
- (2) 国際的視点に立った食料・資源問題の解決に熱意と意思を持つ人。
- (3) 実用的な英語力の強化に意欲のある人。
- (4) 学ぶことに努力を惜まず、社会の持続的発展に取り組む意欲を持つ人。



教員からのメッセージ



Mun'delanji C.M. VESTERGAARD (Associate Professor)

The Special Course in International Food Resource Science has a couple of unique aspects. The first is that students have the opportunity to take classes in both agriculture and fisheries area. The second is that, when they get to select a laboratory to join, they have an opportunity to change from agriculture to fisheries and vice versa. In the fourth year of studies, students can choose to do their research projects abroad or within Kagoshima University in Japan. Furthermore, the students take a lot of English classes, to improve their language communication. Some of the courses are also taught in English. This equips the students with the ability to work in international and global institutions in agriculture, fisheries and food-related organizations/companies. Our students are also offered opportunities of joining internships and study tours abroad. As such, they start to build international networks and expand their global outlook.

This course is recommended for students who are interested in and want to actively take part in solving global challenges in food, agriculture and fisheries; as well as environmental problems. Our internationally experience faculty will provide the necessary support.

農学科
国際食料資源学特別コース
准教授

フェスターガード
C ムンデランジ

教員一覧

職名	氏名	分野	担当講義
教授	坂上 潤一	熱帯作物学研究分野	1) 国際食料資源学 2) 熱帯作物学 3) 国際開発学 4) Agricultural Production Science
准教授	フェスターガード C ムンデランジ	ナノバイオテクノロジー研究分野	1) Elements of Agriculture Science 2) Seminars in Food Resource Science 3) Food Products Utilization (Organize Invited Lectures) 4) Organize Indonesia Study Tour (Summer Program) 5) Supervise Graduation Projects
准教授	池永 誠	土壌科学	土壌科学 I,II、食環境微生物学、食環境微生物学実験
准教授	香西 直子	熱帯果樹園芸学	植物遺伝資源学
准教授	坂尾 こず枝	食品分子機能学	食品機能学、食品生化学実験

卒業後の進路

国際公共サービス機関
国際関係の公務員
独立行政法人国際協力機構
大学博士研究員
食品、農業関係の公務員

海外企業
国際食品加工会社
国際食品輸出会社
国際コンサルタント会社
貿易会社



学会賞等の受賞 2024-2025

2024

食農資源経済学会学会誌賞 食農資源経済論集,75(1), 87-97,2024.7 (2024年9月7日)
「中国における小規模食品加工企業の原料調達における契約取引の意義と衰退メカニズム」
(農食産業・地域マネジメントプログラム 坂井教郎)

日本応用糖質科学会2024年度大会 ポスター賞 (2024年9月26日)
「GH183 endo-D-arabinanase の CBM 領域が有する D-アラビナン結合性の解析」
農林水産学研究科食品創成科学専攻先端生命科学コース・岩永菜央 (学生)
(食品生命科学プログラム 藤田清貴、北原兼文)

The 11th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering, Best Oral Presentation Award (2024年9月29日)
「Injury of bacterial spores treated by high hydrostatic pressure processing and its evaluation of the related substances by FT-NIR」
農林水産学研究科食品創成科学専攻：有吉成志朗 (学生)
(農食産業・地域マネジメントプログラム 濱中大介)

The 11th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering, Best Poster Presentation Award (2024年9月29日)
「Effects of electric field with different frequency on the quality and gene expression of strawberry fruits」
農学部食料生命科学科：井手雛子 (学生)
(農食産業・地域マネジメントプログラム 濱中大介)

The 11th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering, Best Poster Presentation Award (2024年9月29日)
「Effect of storage temperature on bacterial flora and nutrient quality of sweet potato」
農学部食料生命科学科：吉川美季乃 (学生)
(農食産業・地域マネジメントプログラム 濱中大介)

日本暖地畜産学会優秀発表賞 (2024年10月27日)
「乳母牛哺乳が黒毛和種子牛の発育及び健康状態に及ぼす影響」
農林水産学研究科農林資源科学専攻畜産科学コース：前田夏希 (学生)
(農林水産学研究科 大島一郎)

日本ラクトフェリン学会賞 富田賞 (応用部門) (2024年11月9日)
「ラクトフェリンのマラリア原虫成長阻害機能について」
(食料生命科学プログラム 宮田 健)

2024年度日本有機農業学会 ポスター賞 (2024年12月7日)
「小規模水田における小型球体ロボットとアイガモ雛の除草能力の比較」
農業生産科学科畜産科学コース：松本若菜 (学生)
(環境共生科学プログラム 高山耕二)

在校生からのメッセージ

※在校生の学年・学科等は2024年度となります。

大学生活について

毎日を楽しもう！

私は入学当初、地元から離れたことからの不安が大きかったのですが、新しい環境、新しい友人に囲まれて過ごしていくうちに「楽しい!」と思えることが増えてきました。大学での生活では何をするかは自分に委ねられます。私自身も、今まで挑戦できなかったことができるようになり、行動の選択肢が増え、迷うことも多かったです。ただそれも今しかできない経験だと思い、新しいことに挑戦することを恐れず、楽しみながら日々過ごしています。ぜひ皆さんも大学でたくさんの挑戦をして、たくさんの「楽しい!」を見つけてみてください!



有光 彩英 さん
農学部4年
長崎東高等学校出身

大学生活について

何事も自主・創造の4年間を!

感染症を言い訳にだらだら過ごしていた日々よりも、忙しいながらも色々興味のあることに取り組んでいる今、最高に充実しています。大学生活の4年間はあっという間です。初めての場所・ヒト・経験ですが、まずは一步踏み出してみましょう。自分で切り開き、創りあげた大学生活こそが、きっと夢に描いたキャンパスライフそのものです。勉強だけでなく、部活やサークル・遊びも120%で楽しめる、それが鹿大生の特権です!!



末松 竜馬 さん
農学部4年
新宮高等学校出身

大学生活について

今しかできないことに挑戦しよう!

大学では自分自身で好きなように授業を組むことができるので、趣味やアルバイトなど勉強以外のことにも多くの時間を使うことができます。私は休日に趣味であるライブ・音楽フェスによく行っていたため、そのために課題はなるべく溜め込まないようにし空きコマなどを利用して課題に取り組んでいました。勉強ももちろん大事ですが、サークル活動やアルバイトなど大学生のうちにしか経験できないことにもたくさん取り組んでみてください!



平田 葵 さん
農学部4年
武岡台高等学校出身

大学生活について

やりたいことは全部やる!

大学生は、生活が全て自由になって、自分の興味があることに気軽に挑戦できる環境になります。研究、部活、サークル、バイト、趣味の活動などなんでも、自分がやろうとすればできるのが大学生です。私は、やりたいことは積極的に挑戦して、自分の好きなことを探す期間だと思うようにしています。私のコースは、将来の選択肢が多いので、まだまだ決めなければいけないことが多くて迷ってばかりですが、楽しみながら大学生活を送っています。



鈴木 凜々子 さん
農学部
国際食料資源学特別コース3年
明治学園高等学校出身

附属教育研究施設

Facilities of the Faculty

附属農場

附属演習林

附属焼酎・発酵学教育研究センター





鹿児島県内3ヶ所に施設を持つ分散型農場です。合計約14haの面積を有し、各施設では、南九州特有の温暖な気候を活かした作物・果樹・花卉などに関する生産技術と、それを取り巻く環境についての教育・研究に取り組んでいます。

学生実習では講義や実験で得た知識を農場で実践することにより、農産物生産の「現場・現物・現実」を学び、「農」の総合性を理解することに重点を置いています。

准教授	高山 耕二
准教授	朴 炳宰
助教	西澤 優

学内農場農事部 (3.20ha)

郡元キャンパス内にあり、水稻、畑作物、野菜、花卉などが栽培されています。圃場や施設を活用した学生実習や、様々な研究に利用されています。近年では、IoTを利用したスマート農業の研究や実践にも力を入れています。また、幼稚園、小・中学生の農業・職場体験や地域の方々との交流および学びの場としての役割も担っています。



田植え実習

唐湊果樹園 (7.30ha)

郡元キャンパスから約2kmに位置し、市街地でも実践的な果樹栽培を学べるのが特徴です。主にカンキツ、ビワなどの常緑果樹、カキ、モモ、ブルーベリー、ブドウなどの落葉果樹を栽培しています。約200種の果樹系統・品種を保有しており、多くの実習・研究に利用されています。



カキ収穫実習

指宿植物試験場 (2.89ha)

薩摩半島南端に位置し、熱帯・亜熱帯作物の研究・実習を行っています。場内から湧き出る温泉の熱を利用し、冬でも温暖な栽培環境を作ることができます。また、多岐にわたる熱帯・亜熱帯性の有用遺伝資源植物を収集・育成しており、学内・外の研究に広く活用されています。



マンゴー花吊り実習

学内農場動物飼育棟

学内農場に隣接し、動物の飼育・管理に係る実習と研究が行われています。ここでは、ヤギ、ミニブタ、ニワトリ、アイガモ、ガチョウ、コールドックなどが飼育されています。日常の管理は、学生が行い、飼養管理技術の基本を習得するとともに、フィールドでの応用(アイガモ農法、ヤギやガチョウの除草利用など)へと繋げていきます。



飼育されている動物たち(左からガチョウ、ニワトリ、コールドック、ヤギ)

研究テーマ

- スマート農業技術を活用した高品質トルコギキョウ作出
- 水耕栽培による高糖度トマト作出方法の検討
- IoTを活用した農場用水の遠隔・自動制御への取り組み
- 熱帯産ヤマイモの生理生態および栽培特性に関する研究
- 南西諸島の在来カンキツに関する研究
- ビワの果実品質および収量に関する研究
- 熱帯・亜熱帯性作物の生理生態調査と栽培方法の確立
- 温泉熱を利用した施設加温システムの検証



水耕による高糖度トマト栽培

教員からのメッセージ



附属農場長
高山 耕二

私は学生時代、農場で『アイガモ農法に関する研究』に取り組みました。その後、ミャンマーで農業分野での国際協力活動に従事し、今は自分の農地でヤギやニワトリを飼いながら、田んぼでの米づくりを楽しんでいます。振り返れば、農場で研究に取り組む中で水稻の栽培技術、農機具の使い方、そして農業をする上で欠かせない人との接し方を学び、それが今でも大いに役立っています。

自然に向き合い、その恵みを受けながら、食料を生産するのが農業です。農場は皆さんが座学で学んだことを、実践を通じてさらに理解を深めていく貴重な場でもあります。鹿児島大学農学部の附属農場では、様々な作物や果樹が栽培され、貴重な遺伝資源の保存や新たな技術の開発も進められています。この魅力あふれた農場でスタッフとともに、「農」に対する知識と理解を深めてください。

○学位/博士(農学)鹿児島大学 ○専門/動物行動学、野生動物の管理
○担当授業/有機畜産論、応用動物行動学、有機農業 | 新しい食と農のかたち



森林・林業に関する教育研究のために3400haの広大な森林が用意されています。森林科学コース(農林環境科学科)の学生を中心に、たくさんの実習科目で演習林を活用します。実習では宿舍で合宿生活をしながら、樹木、育林、計測、生態、林産、砂防、環境教育などのさまざまな分野を実地で学びます。最近では共通教育科目や他大学の授業などにも多数利用されています。

教授	寺岡 行雄
助教	牧野 耕輔
特任助教	滝沢 裕子

高隈演習林 (3061ha)

大隅半島の垂水市にあり、照葉樹林と屋久杉などの人工林がおおよそ半分ずつを占めています。人工林は施業をしながらさまざまなタイプの森林を整備しています。ほとんどの試験研究と実習がここで行われています。



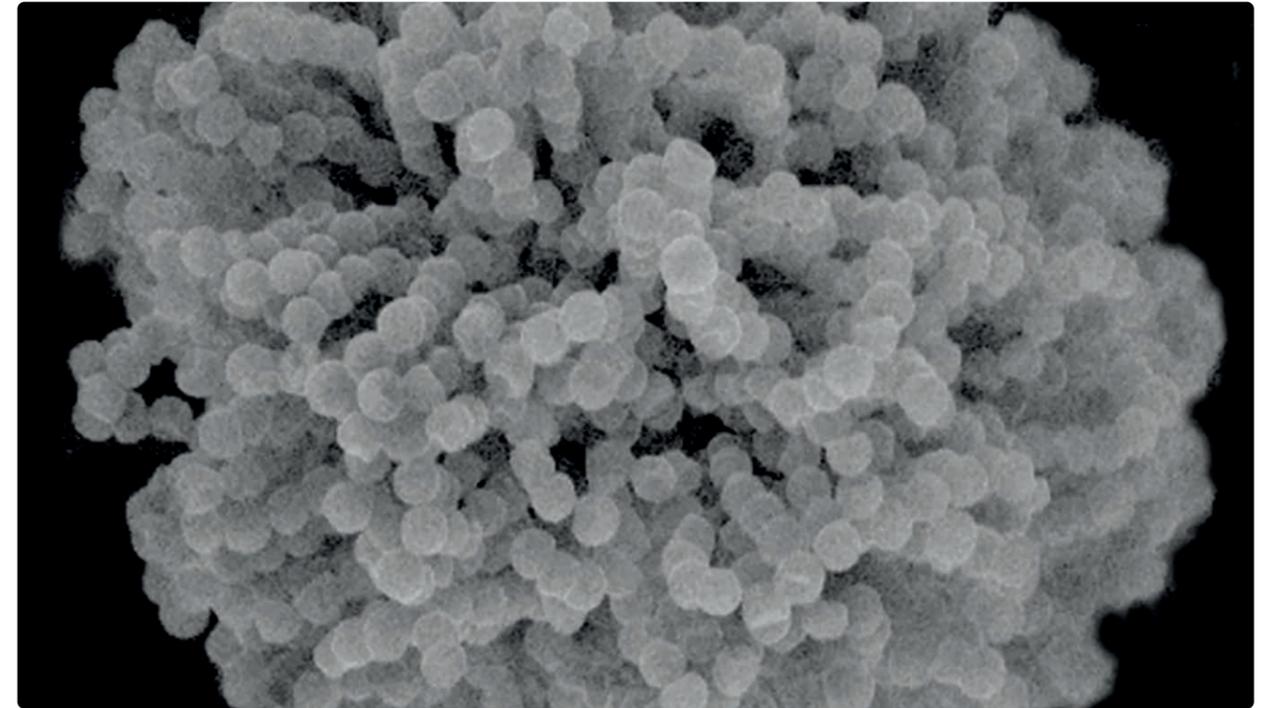
演習林宿舍

桜島溶岩実験場 (37ha)

大正3年の桜島大噴火で流出した溶岩台地にあり、不毛の岩石地がしだいに森林化してゆく植生遷移の研究の場となっています。

研究テーマ

- スギ林の施業と高品質大径材の育成
- 様々な樹種の遺伝子保存と育成
- 林業生産システムに関する研究
- 森林環境教育と農山村の地域づくり
- 低コスト造林の実証実験
- 野生鳥獣の生息状況モニタリング



白麹菌分生子の電子顕微鏡写真

本センターは、焼酎製造学部門と醸造微生物学部門、発酵基礎科学部門、焼酎文化学部門を設置し、焼酎に関する教育・研究に加え、研究の対象を広く発酵食品と発酵文化の領域まで含むことで、鹿児島における発酵学の中核機関としての機能を担うことを目的に平成23年4月に設立されました。風土性と伝統に学びつつ、新たな展望を開くための研究開発を通じ、鹿児島の誇る焼酎を始めとする発酵食品文化を継続的に発展させ、これからの焼酎・発酵分野を担う人材の育成を目指します。

教授	高峯 和則
	玉置 尚徳
准教授	二神 泰基
	吉崎由美子

北辰蔵 (焼酎製造実習棟)

麹室、発酵試験室、研究用ガラス製蒸留器および小型実用蒸留器を備えており、焼酎造りの主な工程を行うことができます。また、造った焼酎の香り、成分の分析装置や酎酒を行う官能検査室もあります。



焼酎・発酵学教育研究センター(北辰蔵)

研究テーマ

- 焼酎・発酵食品の香気成分の同定と生成機構
- 発酵食品の機能性の検索 ●醸造微生物の機能解明
- 醸造微生物の育種 ●焼酎副産物の機能性解明・用途開発



試験蒸留

研究部門

- 焼酎製造学部門 ●醸造微生物学部門 ●発酵基礎科学部門
- 焼酎文化学部門

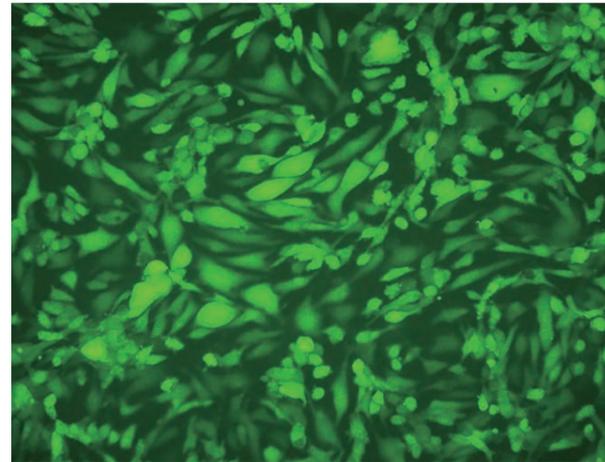


酎酒

食料基地である南九州の地域創生支援



天敵微生物(糸状菌)に侵された新規侵入害虫ツマジロクサヨトウ



血管細胞の増殖

農水融合の高度な実践教育

本研究科は、国内有数の食料供給地である南九州から東南アジア・南太平洋を視野に、人々の健全な生活基盤である農林水産業・食・環境・生命科学の分野の高度専門教育を行い、資源の持続的生産とその合理的利用及び環境保全に対応するスペシャリストの養成を目指しています。これによって、急速にグローバル化する産業構造の変化、地球規模での環境変動、ならびに地方で特に深刻な労働力人口の激減など、地域と世界が直面する課題の解決に貢献しようとするものです。

これらの課題を解決するために、質の高い農水融合型教育の強化を目指し、既存の農学研究科と水産学研究科を統合して農林資源科学専攻、食品創成科学専攻、環境フィールド科学専攻、水産資源科学専攻の4専攻で構成する農林水産学研究科を設置しました。

農林資源科学専攻

ICT農林畜産業に関する高度な知識や高度なマーケティング能力を有した人材、鳥獣害・過疎化等への対応、地域や市場ニーズに適応可能な人材育成を行います。

環境フィールド科学専攻

農学分野と水産学分野双方の高度な知識を有し、環境科学を活かし地域の課題解決(環黒潮圏、資源変動、自然災害、環境保全等)に貢献できる人材育成を行います。

食品創成科学専攻

農学分野と水産学分野双方の高度な知識を有し、食の安全・品質保証・グローバル化に適応可能な人材育成を行います。

水産資源科学専攻

水産業の課題解決(持続的生産、養殖生産効率化、漁場保全、流通政策、アジア市場開拓等)に向けた高度な知識を有する人材育成を行います。

3大学連携の教育・研究体制を持つ農水産系研究科

ユニークな教育・研究体制で成果を発揮

本研究科は下記の3大学の農水産系学部、大学院修士課程研究科を母体として鹿児島大学に農水産系の博士課程を設置した連合型の大学院です。ユニークな教育・研究体制を持ち、これまで多くの博士を誕生させています。

佐賀大学	農学部・大学院農学研究科・大学院先進健康科学研究科
鹿児島大学	農学部・大学院農林水産学研究科
鹿児島大学	水産学部・大学院農林水産学研究科
琉球大学	農学部・大学院農学研究科

本研究科は、農学・水産学や学問分野の枠組みを超えた研究指導ができるように、令和7年(2025年)4月に、3専攻を1専攻とする改組を行いました。

食料、健康、環境に関わる高度な専門知識と学識を備え、新しい農林水産業の創成を国際的な視野と地域振興の視点で先導できる博士人材を養成することを目的とし、博士(農学)、博士(水産学)または博士(学術)の学位を取得することができます。

学生に対して3名からなる指導教員が研究指導體制をとることにより、きめ細かな教育を受けることができ、本研究科では、アジア、アフリカ、中南米などからの多くの留学生が、日本の社会に溶け込んで、日々研究活動に励んでいます。



連合農学研究科研究棟

専攻名	専攻内容	領域名	定員
農水生命科学	地域特有の生物生産が活発に行われている九州・沖縄地域からアジア、アフリカまで広がる暖温帯および熱帯、亜熱帯域の自然環境、生物資源、地域社会を主な対象としており、地域性を活かした食料の生産、社会科学、持続可能な農林水産環境の保全、生物資源や食品の有効利用、先端生命科学などに関する幅広い教育と研究を実施し、農林水産学・生命科学に関する高度な専門知識・技術及びグローバルな視野を備え、社会が求める博士人材として、地域社会と国際社会の発展に貢献できる人材を養成することを目的としている。	農水圏生産科学	30
		生物資源生命科学	
		地域環境共生科学	

(令和7年4月1日現在)

大学院連合農学研究科 シンボルマーク

デザインコンセプト

鹿児島大学大学院連合農学研究科を構成する4つの農水産系学部の4枚の羽根で表現し、連合農学研究科が今後ますます発展するようという意味が込められている。青い羽根は水産学部、緑の羽根は農学部をイメージし、デザインを取り囲む円の部分は緑の大地を表現している。



農学部 の 4 年間

	1年生 主な科目	2年生 主な科目	3年生 主な科目	4年生 卒業研究・ゼミ	
農学部	農学基礎(農業原理) 農業と社会 フィールド基礎実習 基礎化学入門B 基礎生物学入門 キャリア1:農学プログラム概論 キャリア2:業界学習 キャリア3:キャリアデザイン I 遺伝学 国際開発学 環境共生学 食品化学 フードシステム入門 I・II	キャリア3:キャリアデザイン II キャリア4:学外研修 栽培技術論 果樹園芸学 観賞園芸学 I, II 植物栄養・肥料学 I, II 植物生理学 土壌科学 I, II 植物病理学 I, II 雑草防除学 農場実習(集中) 基礎統計学 I, II 森林生態学 森林保護学 森林経済学 I, II 家畜繁殖学 I, II スマート農学入門 I, II 森林水文学 農業水利環境学 応用力学 野菜園芸学 環境フィールド演習 屋久島実習 害虫学 I, II 生物化学A 生物化学B 有機化学 代謝生化学 食品機能学 応用微生物学 酵素化学 無機化学 農業経営学 I, II 青果保蔵学 I, II 品質管理システム学 I, II 農産物価格理論 I, II	作物学 I, II 熱帯作物学 I, II 農業機械学 I, II 植物育種学 植物遺伝資源学 比較環境農学 I, II 農場実習 I 植物生産学実験 I フィールド実習 治山・砂防学 I, II 森林生物学 きのこ・真菌学 有機畜産論 I, II 動物発生工学 I, II 農林業ICT論 I, II 森林利用学 I 景観デザイン学 I, II 地盤環境工学 I, II 地盤環境工学 II 森林社会・経済演習 樹木実習 育林学実習 栄養化学 細胞分子生物学 食品分析化学実験 食品生化学実験 微生物学実験 遺伝子工学実験 分析化学 暖地農業実習 農業経済学入門 I, II 食料経済学 I, II	農業気象環境学 I, II 耕地生態学 I, II 食料安全生産論 植物生産学実験2 植物生産学実験3 森林政策学 I, II 森林計測学 I, II 育林学 地域計画学 I, II 農地保全学 I, II 環境水理学 木質工学 I, II 森林動物学 I, II 生物的防除論 I, II 応用動物行動学 I, II 農林業センシング I, II 環境農学実験 I, II 水土実験 食品微生物学 植物性食品学 焼酎製造学 動物性食品学 発酵食品製造実習 糖質科学 農産物流通論 I, II 農産物マーケティング論 I, II 農村計画学 I, II 農業政策学 I, II 青果保蔵学実験 食品プロセス学実習 植物生産学応用実験 農場実習 II, III 地域実習 農業生産実地研修 食環境微生物学 森林管理・施業実習 温帯林概論 樹病学 I, II 森林利用学 II 応用数学 I, II バイオマス工学 農林産物サプライチェーン 地域環境情報解析学 木質工学実験 スマート農林業演習 森林生態学実習 フォレスター総合実習 科学基礎演習 焼酎製造学実験 食品衛生学 食品製造実習 醸造微生物学 ビジュアルデザイン演習 食産業・地域マネジメント演習 I, II 質的研究方法論 農村課題解決プログラム 国際農業論 I 国際農業論 II ポストハーベスト生化学 I, II 専門英語	国際森林論 卒業研究
	初年次セミナー I 初年次セミナー II 大学と地域 体育・健康 情報活用 英語 異文化理解入門 教養教育科目 人文・社会科学分野科目 自然科学分野科目 統合 I (課題発見) 統合 II (課題解決)	プログラムへの配属	卒業プロジェクト 指導教員への配属	国際食料資源学特別コース 実用英語A, B, C 国際開発学 水産学概論 キャリアデザイン 実用英語D 海外研修 国際食料資源学 Elements of Agricultural Science Elements of Fisherise Science 実用英語E 国際経済論 国際関係法概論 国際食料関係論 Agricultural Production Science Fisheries Production Science	卒業プロジェクト

■ 共通教育科目
 ■ 農学基礎科目
 ■ キャリア教育科目
 ■ 植物資源科学プログラム
 ■ 環境共生科学プログラム
■ 食品生命科学プログラム
 ■ 農食産業・地域マネジメントプログラム
 ■ 国際食料資源学特別コース

※各プログラム開講科目はどのプログラムに配属されても自由に選択できます。(科目により履修上限人数等の制限があります。)

国際交流・外国人留学生

本学部では、現在、本学部の教職員が窓口となり、下記の約30大学と学術交流協定および学生交流覚書を締結して、共同研究、教員の交流、学生の交流を実施しています。外国人留学生は、中国、東南アジアを中心に、毎年約20カ国、約90名を受け入れ、本学部からは毎年数名を派遣しています。さらに、短期海外実習として数十名の学生が毎年海外へ出かけています。

国際交流協定締結大学[部局間学術交流協定]

締結大学	国名	締結年月日
中国文化大学 農学院	台湾	平成24年10月3日
リロングウェ 農業天然資源大学	マラウイ共和国	平成28年8月23日
メーファンラン大学 農産学部	タイ王国	平成28年11月14日
セント・オーガスティン大学	タンザニア連合共和国	平成30年4月19日
華中農業大学	中華人民共和国(中国)	平成30年5月22日
ヌエボレオン自治大学	メキシコ合衆国	平成31年1月22日
マラウイ科学技術大学	マラウイ共和国	平成31年3月25日
タクシン大学	タイ王国	令和5年10月18日

(令和6年1月1日現在)

国際交流協定締結大学[大学間学術交流協定]

締結大学	国名	締結年月日
ジョージア大学	アメリカ合衆国	昭和54年11月29日
雲南農業大学	中華人民共和国(中国)	平成元年5月11日
湖南農業大学	中華人民共和国(中国)	平成元年6月2日
バレンシア工芸大学	スペイン	平成12年2月7日
メジョー大学	タイ王国	平成13年4月30日
国立モンクット王 工科大学トンブリ校	タイ王国	平成14年1月16日
ベトナム国家農業大学	ベトナム社会主義共和国	平成14年3月6日
江原大学	大韓民国	平成14年4月5日
アンダラス大学	インドネシア共和国	平成15年12月1日
カセサート大学	タイ王国	平成17年12月19日
カフルアッシュアイフ大学	エジプト・アラブ共和国	平成23年9月5日
四川大学錦江学院	中華人民共和国(中国)	平成23年12月16日
ロッテンブルク 林業大学	ドイツ	平成25年11月5日
スリウィジャヤ大学	インドネシア共和国	平成27年11月2日
ベンハ大学	エジプト・アラブ共和国	平成30年6月22日
ノースダコタ州立大学	アメリカ合衆国	平成26年1月15日
スロバキア農業大学	スロバキア	平成27年5月1日
忠北大学	大韓民国	平成28年8月18日
カントー大学	ベトナム社会主義共和国	平成21年5月25日
セントラル クイーンズランド大学	オーストラリア連邦	令和元年12月5日

(令和5年1月1日現在)

教員の海外渡航数と外国人研究者の受入れ数

区域	渡航数	受入れ数	計
アジア	15	8	23
ヨーロッパ	4		4
アフリカ	4		4
北アメリカ	4	1	5
計	27	9	36

短期交換留学生数

国名	受入	派遣
中華人民共和国	3	1
タイ王国	1	
ドイツ共和国	1	1
アメリカ合衆国		1
スペイン王国		1
メキシコ共和国		1
計	5	5

(令和6年10月1日現在)

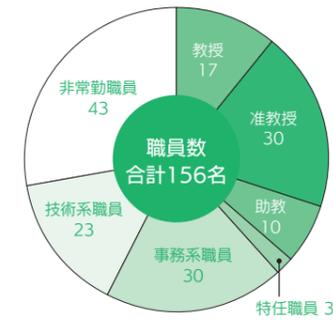
外国人留学生数

地域	国名	学部	修士*	博士*	計
アジア	インドネシア共和国		2	1	3
	タイ王国		1	1	2
	大韓民国(韓国)		5	3	8
	中華人民共和国(中国)		20	21	43
	ベトナム社会主義共和国		3	1	2
	台湾		1		1
	スリランカ			1	1
アフリカ	ケニア			1	1
	ウガンダ共和国		1		1
	ソマリア連邦共和国			1	1
	シエラレオネ		1	2	3
	南スーダン共和国			1	1
	エチオピア		1		1
	ジンバブエ			1	1
南アメリカ	タンザニア		1		1
	ナイジェリア		1		1
南アメリカ	ブラジル		1		1
大洋州	ソロモン			1	1
計		32	30	15	77

* 鹿大農学部教員が指導教員となっている学生 * 研究生を含む
(令和6年10月1日現在)

農学部の主な進路等

職員数(現員) (令和7年4月1日現在)

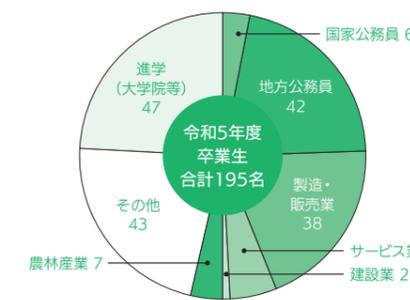


学生定員現員

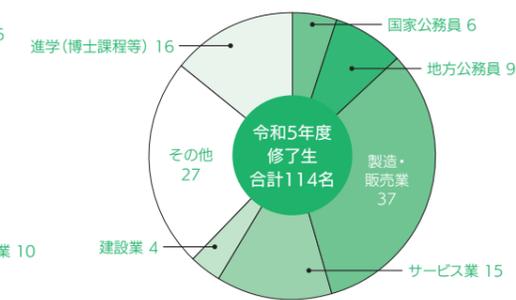
区分	学科	令和7年度 入学定員	現員				計
			1年次	2年次	3年次	4年次	
農学部	農業生産科学科	—	0	78	80	99	257
	食料生命科学科	—	0	74	77	72	223
	農林環境科学科	—	0	65	58	74	197
	農学	175	181	—	5	—	186
計		175	181	217	220	245	863

(令和6年5月1日現在)

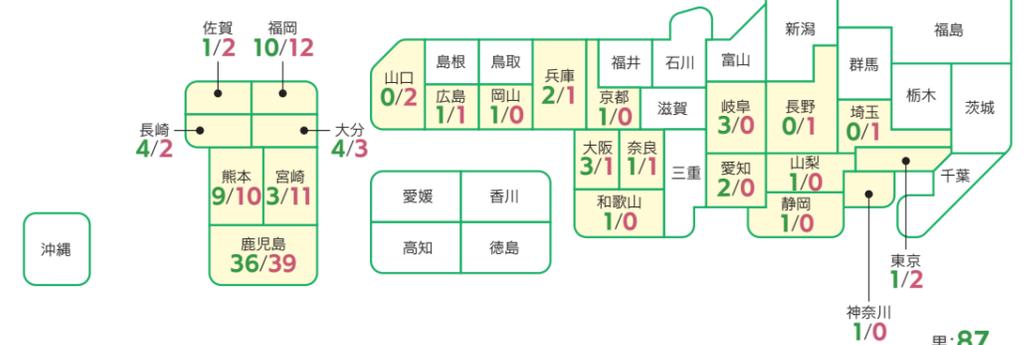
進路状況



大学院(修士課程)



令和5年度 出身高校所在地による入学者数



取得できる資格

農学科	取得できる資格
食品衛生管理者(任用資格*1) 食品衛生監視員(任用資格*1)	卒業要件に含まれる科目のほか、関連科目の履修が必要である。食品生命科学プログラムは養成施設であるため、卒業時に任用資格となる。その他のプログラムについては、指定される科目を修得し、卒業後に申請する必要がある。
自然再生士補*2 樹木医補*2	認定科目を修得した者の申請に基づき、財団法人日本緑化センターが認定する。
森林情報士2級*2	認定科目を修得した者の申請に基づき、一般社団法人日本森林技術協会が認定する。

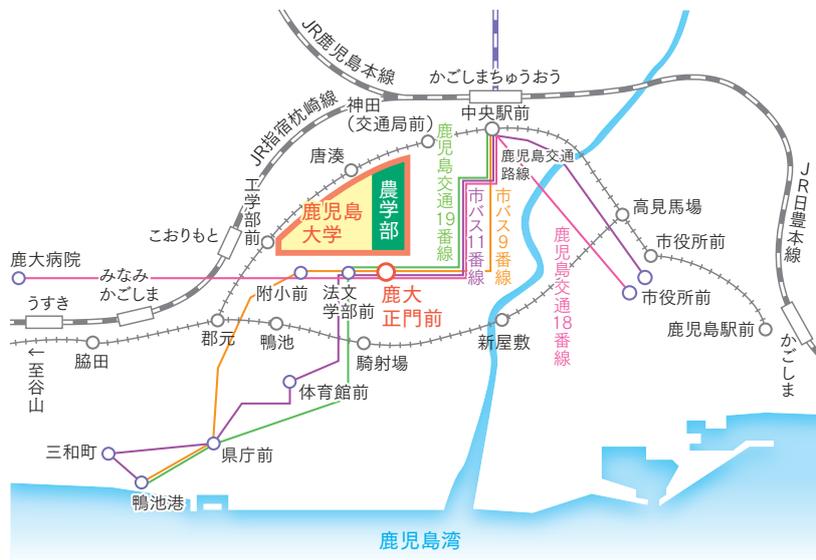
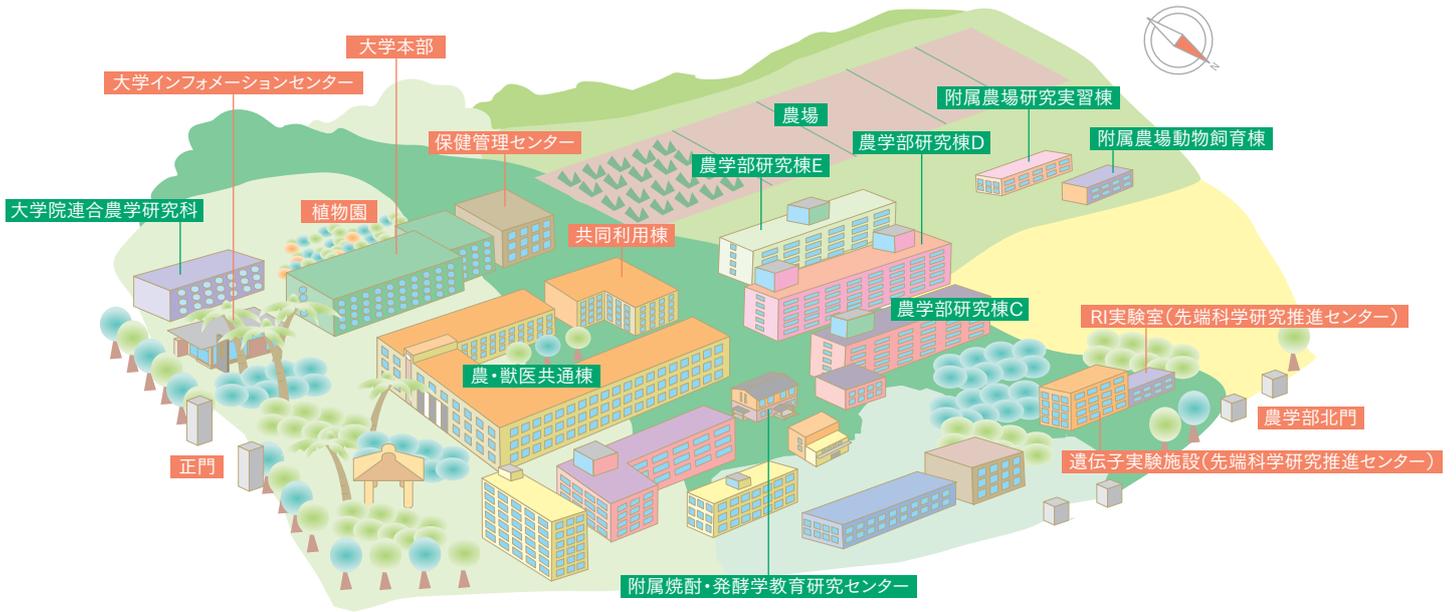
*1 卒業後、食品衛生に関わる職種についた場合に取得できる資格。
*2 卒業要件に含まれる科目で取得可能であるが、資格取得が卒業の必須条件ではない。

取得できる教員免許

農学科	取得できる教員免許
農学科	高等学校教諭一種免許状(農業)

※農学部は令和6年4月1日より3学科を統合し農学科1学科4プログラムに移行

農学部施設配置図



交通アクセス

- 鹿児島交通(⑱・⑲番線)..... 鹿大正門前下車・徒歩1分
- 市営バス(⑨・⑩・⑳番線) ... 鹿大正門前下車・徒歩1分
- 市電..... 唐湊もしくは神田(交通局前)電停下車・徒歩5分
騎射場電停下車・徒歩5分
- JR..... 郡元駅下車・徒歩10分
鹿児島中央駅下車・徒歩20分
- 車..... JR鹿児島中央駅から5分



国立大学法人

鹿児島大学 農学部概要

KAGOSHIMA UNIVERSITY

TEL: 099-285-8515 FAX: 099-285-3572

URL: <https://www.agri.kagoshima-u.ac.jp>

E-mail: nksoumu@kuas.agri.kagoshima-u.ac.jp